

学校での授業から

— 持続発展教育 (ESD) の価値 —

高山大学

松本 謙一

2 教師のねらいと 子どもの学び

高岡市立N小学校

T先生の実践から

1 はじめに

第6学年総合的な学習の時間
—「野村校区環境ウォッチング」の
取り組みから—



富山県高岡市立野村小学校：鳥内 禎久

通学路クリーン作戦



通学路クリーン作戦後の感想

汚くない派=W児

汚い派=M児

3人

・きれいな水に住んでいるコカゲロウがいたよ。
・少しぐらい汚れている方が生物は住みやすい。
・昔はもっと、汚かったらしい。

生物が
住んでいた

・空き缶のポイ捨てが多く、ゴミ拾いが大変だった。
・水草に油が付いていた。
・近寄ってにおいをかいだら、とてもくさかった。

28人

同じ地久子川をなのに見方(着眼)が違う

本当にきれいなのかきたないのか確かめたい！

地久子川での環境調査



切実感

自分たちの問題

汚くない派

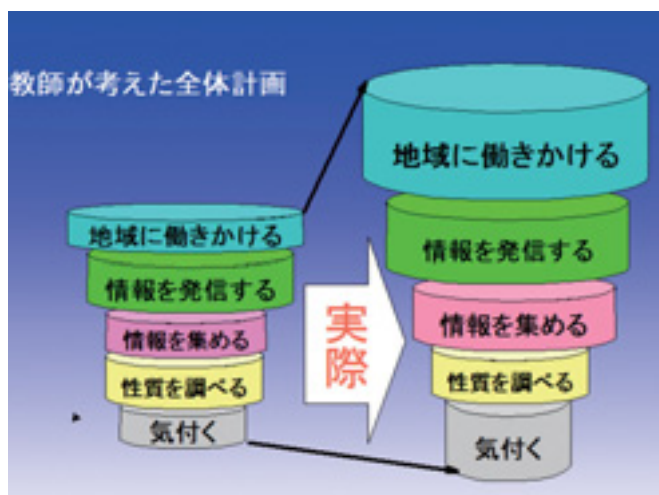
水生生物や水の成分を調べていくうちに、「地久子川はやっぱりきれいじゃないと思うようになった。でも…」

汚い派

「きれいじゃないけど、汚くない」と言ったW君の気持ちが分かったような気がする。だって私たちの身近にある川にものね。

「このままではいけない。地久子川をきれいになりたい」という願いは共通

汚いとまで言いたくなかったW君の気持ちがクラス全体への願いへと変わっていった。



3 考えさせられたこと(1)

地域教材の価値
— 郷土愛 —
→ 呉羽山の里山

3 考えさせられたこと(2)

地域子どもが内包している
ESD
— 個人ではない地球人 —

3 考えさせられたこと(3)

仲間との違いに学び合う
集団としての高まり